

照明灯

小紙で昨年5月まで連載した楢岡平さんの経済小説「バルス」はネット通販と宅配業界の今を舞台に若者の葛藤を描いた▼ネット通販の市場規模は右肩上がり。2014年には1兆8千億円に達した。断トツの売上高を誇るアマゾン・ジャパンは配送サービスこそ最重要と位置付ける。「タッシュボタン」には驚いた。専用ボタンを押すだけで日用品が即日届く新サービスだ▼物流拠点から各家庭までの配達に「ラストマイル」と呼ばれ、宅配便が担っている。ネット通販が「送料無料」といったサービスができるのは宅配が低賃金で、ネット通販会社が自前で負担できる範囲だからだ▼そのラストマイルに變動が起きている。宅配便最大のヤマト運輸が運賃引き上げを決断。アマゾンなどと交渉を始めた。ドライバー不足、長時間労働で現場は極限状態。値上げによる待遇改善がなければ、高まる一方の消費者ニーズに対応できない▼神奈川大学の齊藤実教授著「物流ビジネス最前線」(光文社新書)は、アマゾンの巨大物流センター(小田原)やマートの巨大物流施設(厚木)を紹介し、激しい攻防をあぶり出す。アマゾンは仕分けをロボットに託し、ドローン配送も視野に入れる。ラストマイルの主導はさて、どう動くのか。

【2017-3-15】